

民報 ゆうばり

南スーダン自衛隊に駆けつけ警護！

社会保障の大改悪を計画する安倍政権！！

くまがい市議街頭から 後援会では署名行動

共産党夕張総合後援会では、月2回のペースで、統一行動をおこなっています。これまで、6回の行動で、署名は222筆になりました。



熊谷市議がマイクで「アフリカの南スーダンでは、首都で激しい戦闘が続き、派遣されている自衛隊の宿営地が危険に直面しています。安倍政権は、南スーダンに派遣されている自衛隊に『駆けつけ警護』など武器使用の任務を拡大しようとしています。

また安倍政権は、社会保障の第改悪を計画しています。75歳以上の医療費窓口負担を2割にし、介護保険で65%の人から、訪問介護給付を取り上げようとしています。」などと訴えま

した。後援会のメンバーが署名をもって訪問

署名に反対は非常に良く、多くの方と対話をしました。

署名に協力してくれた方の声を、いくつか紹介します。恵団地での署名行動で、昭和8年生まれのご婦人が署名を

「戦争は一般の人を犠牲にして突き進む」

しながら「私は12歳の時、空襲で軍需工場が盛んだったために艦砲射撃を受け、砲弾が近くの民家に落ちた。辛うじて防空壕に入り、生き延びることが出来た。戦争は一般の人を犠牲にして突き進む。お偉いさんは、そこ

る自衛隊青森部隊の



話をしたところ「戦争」と怒りをこめて語法」の強行採決をテレビで見た時のことを思い出し「あんなことは国民として許せない。ましてや憲法学者がその誤りを指摘しているにもかかわらず」

「安倍首相は独裁政治！ 安倍首相は恐ろしい人！」

「独裁政治ではないか」男性は、「新しい市営

住宅は快適だが、足が不自由で松葉つえを離せません。ここは駐車場が遠いので困っています。」と署名にも協力して、二ユー协会会员になってくれました。

歩団地では、ある女性が「近頃は、ぶつそつな世の中になってきた。安倍首相は、恐ろしい人と感じている。このように署名を集めるのは、なかなかできないこと。がんばってください」と励ましの声をもらいました。翔団地では、ある男性は、「わざわざ署名に来てくれてありがとう。政治の話は、なかなかできないので来てくれて、話ができてよかった」といって、署名をしてくれました。後援会では今後も、月2回の統一行動を続けていく計画です。

「夕張レコード愛好会」 「第九を聴く会」開催

12月10日夕張レコード愛好会は、創立から58回目の「第九を聴く会」を開催しました。

この日は全道的大雪に見舞われ、札幌から参加を予定していた方が来られないうち、事態になりました。例年12〜3名の方が鑑賞に参加していたのが、今回は7名の集まりとなりました。

これは音楽史上偉大な作曲家であるベートーヴェンの交響曲第九番「合唱付き」の作品を鑑賞する年一度の例会です。ちなみになんか作品なのかを楽曲解説から一部を紹介しました。

「この曲は1824年ベートーヴェンがこの世を去る3年前に完成されたが、第4楽章にシラーの『歓喜に寄す』と題する頌歌が合唱として付けられ、それま



でにかつてなかった雄大な構想に立って人類の永遠の理想を歌い上げている。ベートーヴェンがシラーの詩に曲を付けようと思いついたのは、まだ生まれ故郷のボンにいた23歳の頃のことであり、それ以来実に30余年の間絶えず暖めてきたのである。旋律は長い年月の間、心ゆくまで磨き上げられ、可能な限り簡潔で、そして印象的なものに成長していった。しかしその間ベートーヴェンの耳の病は次第に悪くなり、この曲に実際に着手した1823年頃にはもう完全に聞こえなくなっていた。：

くずさんの夕張歴史散歩(62)

大正10年のたたかい②

北炭の賃金二割切り下の提示は、当然のことに猛反発を受けます。

それだけでなく毎日のくらしに汲々としていく坑夫に、賃下げは直接響きました。物価の騰貴は、米騒動の前と比べて三〜四倍にも達していたのです。

「日々の米だつて、一升六十六銭と四倍にもなっている。かかあは毎日一升買ひもままならないのに！」この上、稼ぎ高を削るって！」「食わずに働けと云うのか！」。

賃下げで会社の利益を守ろうとするのは、現代にも通じていませんか。

「一心会」を利用

北炭は、賃下げ発表にあたって早くも「一心会」を利用します。

まず一月発表早々に一心会の役員会を集め、「賃下げは、万やむを得ない処置であり、もしこれを拒否するのであれば、あとは首切りしかない」と強調します。

しかし、こうした時のために組織した「一心会」も、簡単に「分かりました」とはなりませんでした。



畠山和也「国会かけある記」

衆議院議員

畠山和也

日本共産党の存在感は抜群

この原稿を書いている時点でTPP協定・関連法案は可決されましたが、年金カット法案・カジノ解禁法案の採決は見通せていない国会最終盤。ただでさえ強硬な国会運営が続いた自民・公明に加え、維新がカジノ解禁へ旗振り役を買って出る異常な状況です。

「どうして、こんなに強硬なことをするんでしょう」とは、ある新聞記者。私からは「経済も外交も失敗が続き、安倍首相が焦り、追い込まれている」と述べました。最近の国会答弁を聞いていても、ごまかしや強弁が以前より見受けられるのです。実は首相自身が、展望を持っていないのではないのでしょうか。

何と先日、ロシアの放送局からTPPについてインタビューを受けました。「日本の政治決定に対して、米国の影響を与えていると思いませんか」「トランプ氏がTPP参加をやめた場合に、どんな事態になると思いますか」などの問い。自主・独立の日本外交こそ、と私から述べました。悪政に対決し、新しい政治への展望を示す日本共産党へ新たな注目が寄せられています。

間もなく私も国会へ送っていただき2年。国会での日本共産党の政治的存在感はずば抜けています。これだけ政治を動かす役割を果たしてこれたのも、議席を増やして躍進したからこそ。この力をさらに大きくするため、これまでに以上に私がかんばる決意です。